

2019年度 地域貢献活動支援報告書

地域イノベーション推進機構長 殿

所 属 地域イノベーション学研究所
氏 名 矢野 竹男

活動テーマ	地域に根ざした人的並びに生物的資源の有効活用 -大台町の地域観光施設を中心拠点とした健康長寿対策に関わる人材育成・再教育の支援-		
実施期間	平成 31年 4月 1日 ~ 令和 1年 3月 31日		
活動内容	<p>(1) 具体的な活動実施内容</p> <p>一般社団法人奥伊勢バイオサイエンスセンター（奥伊勢 BSC）は、2013年9月17日に設立され、昨年の10月で丸5年を経過した。その間、辻 保彦 会長理事（辻製油(株)会長）のもと、三重大学地域研究支援部門との共催で、2014年から、大台町にある奥伊勢フォレストピアにおいて、多分野の人材との相互交流・連携を通しての人材育成・再教育を目的としたフォーラム（奥伊勢 Forum, 共通テーマ：健康科学の基盤となる資源とその有効活用）を毎年開催し、地域課題の解決の契機としてきた。また、2016年8月に奥伊勢バイオサイエンスセンターが運営機関となり、農水省 知の集積プラットフォーム「農・食&健康 Valley プラットフォーム」を設立し積極的に研究開発などのための資金を得る体制も構築してきた。以上のように、この5年間は、人の健康科学を基盤にした主にアカデミア（教員・学生・院生諸氏）並びに大台町職員の方々に向けた活動を中心におこない、その結果、辻製油(株)においてはアカデミアとの共同研究の成果として新製品の開発が促進されるようになってきたことから、陣容の若返りが討議され、辻製油(株)社長の辻 威彦 氏を代表理事とする新陣容となった（図1）。この新陣容への更新を契機に、これまでの経験と成果をもとに食、健康、科学、というキーワードに SDGs を加え、地域に基盤を置く企業の方々との情報交換の場としても広げていきたいと考えている。基本的なものの考え方としては、国家施策*として「バイオをベースとする地域共同体」すなわち Bio-Community の形成が強調されている点にあります。まずは、地域社会においてバイオ(Bio-Science)による個人レベルの健康(Wellness/元気はつらつ)を標榜できる「地域共同体」の形成をサポートすることから始めたいと考えている。</p> <p>*：バイオ戦略2019(総合イノベーション戦略推進会議決定：令和元年6月11日)</p> <div data-bbox="304 1641 1442 2007" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>辻 保彦 会長理事 名誉顧問（退任） 辻製油(株)代表取締役会長 松尾雄志 代表理事 会長理事 京都大学医学研究科特別研究員 三重大学/藤田医科大学客員教授</p> <p>辻 威彦 理事 ★代表理事/理事長（新任） 辻製油(株)代表取締役社長 田中弘一郎 顧問 理事（新任） 大阪大学先進的学際研究機構招聘教授 藤田医科大学客員教授</p> <p>（以下は留任） 奥村克純 理事 三重大学大学院生物資源学研究所研究科長 生物資源学部学部長教授</p> <p>斎藤邦明 理事 藤田医科大学理事長特別補佐 医療科学部学部長 病態制御解析学教授 産学連携推進センター長 京都大学名誉教授</p> <p>矢野竹男 理事 三重大学大学院地域イノベーション学研究所教授 大倉雄次郎 監事 公認会計士・関西大学名誉教授</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p style="text-align: center;">奥伊勢BSC：“想い”を新たに</p> <p>基本発想：地域社会でのバイオによる健康（元気はつらつ）を標榜できる「地域共同体」の形成をサポートすることから始める。</p> <p style="background-color: yellow; text-align: center;">健康に資する食/天然資源と個の健康科学</p> <div style="text-align: center;"> <p>元気はつらつ「健康」 三重大学 藤田医科大学 奥伊勢BSC (SDGs Platform) 炭素素「持続」 天然資源活用「循環」</p> </div> <p>趣旨：「社会課題の克服に重要なキーワードは持続、循環、健康」(*)である。奥伊勢BSCはアカデミアとの協業で得た実績を生かして「Bio-Community」（バイオをベースとする地域共同体）づくりに貢献したい。</p> <p style="font-size: small;">(*)バイオ戦略2019（総合イノベーション戦略推進会議決定：令和元年6月11日）</p> </td> </tr> </table> </div>	<p>辻 保彦 会長理事 名誉顧問（退任） 辻製油(株)代表取締役会長 松尾雄志 代表理事 会長理事 京都大学医学研究科特別研究員 三重大学/藤田医科大学客員教授</p> <p>辻 威彦 理事 ★代表理事/理事長（新任） 辻製油(株)代表取締役社長 田中弘一郎 顧問 理事（新任） 大阪大学先進的学際研究機構招聘教授 藤田医科大学客員教授</p> <p>（以下は留任） 奥村克純 理事 三重大学大学院生物資源学研究所研究科長 生物資源学部学部長教授</p> <p>斎藤邦明 理事 藤田医科大学理事長特別補佐 医療科学部学部長 病態制御解析学教授 産学連携推進センター長 京都大学名誉教授</p> <p>矢野竹男 理事 三重大学大学院地域イノベーション学研究所教授 大倉雄次郎 監事 公認会計士・関西大学名誉教授</p>	<p style="text-align: center;">奥伊勢BSC：“想い”を新たに</p> <p>基本発想：地域社会でのバイオによる健康（元気はつらつ）を標榜できる「地域共同体」の形成をサポートすることから始める。</p> <p style="background-color: yellow; text-align: center;">健康に資する食/天然資源と個の健康科学</p> <div style="text-align: center;"> <p>元気はつらつ「健康」 三重大学 藤田医科大学 奥伊勢BSC (SDGs Platform) 炭素素「持続」 天然資源活用「循環」</p> </div> <p>趣旨：「社会課題の克服に重要なキーワードは持続、循環、健康」(*)である。奥伊勢BSCはアカデミアとの協業で得た実績を生かして「Bio-Community」（バイオをベースとする地域共同体）づくりに貢献したい。</p> <p style="font-size: small;">(*)バイオ戦略2019（総合イノベーション戦略推進会議決定：令和元年6月11日）</p>
<p>辻 保彦 会長理事 名誉顧問（退任） 辻製油(株)代表取締役会長 松尾雄志 代表理事 会長理事 京都大学医学研究科特別研究員 三重大学/藤田医科大学客員教授</p> <p>辻 威彦 理事 ★代表理事/理事長（新任） 辻製油(株)代表取締役社長 田中弘一郎 顧問 理事（新任） 大阪大学先進的学際研究機構招聘教授 藤田医科大学客員教授</p> <p>（以下は留任） 奥村克純 理事 三重大学大学院生物資源学研究所研究科長 生物資源学部学部長教授</p> <p>斎藤邦明 理事 藤田医科大学理事長特別補佐 医療科学部学部長 病態制御解析学教授 産学連携推進センター長 京都大学名誉教授</p> <p>矢野竹男 理事 三重大学大学院地域イノベーション学研究所教授 大倉雄次郎 監事 公認会計士・関西大学名誉教授</p>	<p style="text-align: center;">奥伊勢BSC：“想い”を新たに</p> <p>基本発想：地域社会でのバイオによる健康（元気はつらつ）を標榜できる「地域共同体」の形成をサポートすることから始める。</p> <p style="background-color: yellow; text-align: center;">健康に資する食/天然資源と個の健康科学</p> <div style="text-align: center;"> <p>元気はつらつ「健康」 三重大学 藤田医科大学 奥伊勢BSC (SDGs Platform) 炭素素「持続」 天然資源活用「循環」</p> </div> <p>趣旨：「社会課題の克服に重要なキーワードは持続、循環、健康」(*)である。奥伊勢BSCはアカデミアとの協業で得た実績を生かして「Bio-Community」（バイオをベースとする地域共同体）づくりに貢献したい。</p> <p style="font-size: small;">(*)バイオ戦略2019（総合イノベーション戦略推進会議決定：令和元年6月11日）</p>		

図1 奥伊勢 BSC 新陣容とコンセプト

(2) 地域への貢献(地域の発展・活性化への寄与, 広がり)

奥伊勢 Forum の目的の一つは、拠点活動地域の大台町の高齢者健康福祉対策への支援で、第7回(2018年)奥伊勢 Forum 後に、基調講演をお願いした三重大医学部学の島岡先生と大台町(保健師)との間でウェアラブル端末を活用した高齢者支援に関する取組みが始まった

(3) 共同実施者との連携状況

毎年10月に大台町と連携し、地域の食と地域の健康をテーマとして、「奥伊勢 Forum(主催:奥伊勢バイオサイエンスセンター、共催:三重大学地域研究支援部門)」を開催している。第8回目の奥伊勢 Forum(2019年)は奥伊勢 BSC の活動を大台町外にも周知することを考え、津市のプラザ洞津(津市新町)にて2019年10月25日に開催した。テーマは「AI(Artificial Intelligence)技術:“バイオ”を基盤に置いた人材育成における意味」として、驚くべき速さで進歩しているAIを対象に、研究側から、国立研究開発法人情報通信研究機構・脳情報通信融合機構センター主任研究員の下川哲也氏から、根源となる脳科学という視点からAIの教育的講演を頂き、その上で、技術提供者側で活躍しておられる正晃テック(株)取締役・桜井雅史氏からはIoTとの関連など身近なAIとその仕組みについて紹介頂き、利用者側から、AIが普及すれば、存続が危ぶまれるとご自分で言及しておられる放射線画像診断の専門家である藤田医科大学放射線科教授の寺本篤史氏からは、医用画像解析における新たなイメージング技術について講演頂いた後、講師と参加者での討論会を行った。また、三重大医学部学の島岡先生と大台町(保健師)との間でウェアラブル端末を活用した高齢者支援に関する取組みその取組について、大台町職員から簡単な状況報告も行われた。奥伊勢 Forum は今後も継続していく予定である。

今後の予定

2020年6月中旬 奥伊勢 BSC 講演会(津市内の予定)

2020年10月下旬 奥伊勢 Forum(場所は未定)

(4) 大学の教育・研究成果のかかわり

奥伊勢 Forum をはじめとした活動を契機に三重大学との共同研究に繋がった事例 4件(新規1件、継続3件)

地域イノベーション学研究科社会人博士課程進学予定者 1名

(5) イベント等開催実績(名称, 実施場所, 参加人数等)

第6回奥伊勢 BSC 講演会(2019年6月21日(金))

タイトル 食品検査センター:カビあれこれ

講師 久米田 裕子 氏

(公益社団法人)大阪食品衛生協会食品検査センター常任理事
(NPO)カビ相談センター副理事長

津市 三重大学医学部附属病院 病棟・診療 12F 三医会ホール

参加者 36名

(内訳 学生7名 大学教員9名 自治体職員2名、企業18名)

第8回奥伊勢 Forum(2019年10月25日)

津市 プラザ洞津 44名

(内訳 学生12名 大学教員11名 自治体職員4名、企業17名)

詳細は(3)項に記載

(6) これまでの取組みによって得られた具体的な成果について

- 1) 三重大学・大台町・㈱伊勢萬・㈱近鉄リテーリングと連携し三重大学の産学官連携商品として「奥伊勢ゆずハイボール」を開発し現在も継続販売されている。
- 2) 書籍 矢野竹男・鈴木成宗：地域活性化に果たす地域中核企業の役割ービール製造への利用を目的とした後期生産野生酵母の香気特性および実用性評価に関する研究ー, ISBN: 978-613-9-41923-4 GlobeEdit 社 (2019年)
- 3) 本活動を契機に三重大学との共同研究に繋がった事例 4件 (新規1件、継続3件)
 - ① ショウガ・ゆず等地域資源作物抽出物の肥満の改善・予防に関する機能性評価 (継続)
辻製油株式会社
研究担当者 生物資源学研究科 奥村克純
 - ② 天然資源の機能性評価・分析に関する調査研究 (継続)
(一社) 奥伊勢バイオサイエンスセンター
研究担当者 地域イノベーション学研究科 矢野竹男
 - ③ 高速液体クロマトグラフ質量分析装置を用いた柑橘類果汁及び天然抽出物の成分分析 (継続)
辻製油株式会社
研究担当者 地域イノベーション学研究科 矢野竹男
 - ④ ゆずプロジェクトの産学連携活動を通じた地方創生の取組みに関する研究 (新規)
辻製油株式会社
研究担当者 地域イノベーション推進機構 八神寿徳

第8回奥伊勢 Forum (2019年10月25日 プラザ洞津)の様子

